

「目玉焼きに何をかける？」

2024・2・1 校長 重枝一郎

私は、サッカーの話で何かを例えることが多いのですが、それには理由があります。それはサッカーの指導や考え方が学校教育の指導と被ることが多いからだと思います。共通する考え方として、「個の成長で集団が成長し、集団が活性化すると個も成長する」「ただの寄せ集めではダメだ」ということがあると思います。

その個についてですが、いつも言っているように「一人一人見えている世界が違う」という認識をもつ必要があります。これまたサッカーの例えで話します。

例えば、あなたがサッカーの攻撃的なポジションを担っていたとします。もちろん常に得点をとることを考えています。試合中どんどん前に出て得点を決めました。しかし、試合後のミーティングで守備のポジションの人から「お前、もう少し守備のことも考えろよ！」と責められます。自分としては正しいことをしていたと思っていたので、「守備も大切だけど、俺はオフェンスだから」と言い返します。この衝突のせいでチーム内は険悪なムードになります。

これはまさに「どちらも正しい」パターンです。お互いに違いを受け入れ、お互いの「正しい」を尊重することが大切なのは誰でもわかります。でもこういう時に一番大切なことがあるのです。それは、「共通の目的」を確認することです。

この場合、オフェンスのあなたは「点を取りたい」、ディフェンスのチームメイトは「点を取られたくない」、その一段上の部分は「試合に勝ちたい」です。これが「共通の目的」になるのです。「オフェンス VS ディフェンス」で対立するのではなく、「自分たちのチーム VS 相手チーム」ということなのです。

私たちの学校生活でも内輪もめはあります。しかも「どちらも正しい」パターンで。これも「私 VS あなた」ではなく、「私たち VS 課題」と考えなくてはならないのです。探究学習の「はないち」のような活動はまさにそういうことになります。そうやって意見の対立を一段上に上がることができたら、一人では実現できないことも、もっと大きなことも成し遂げられるチームになれます。みなさんの共通の目標は「のびのびと学校生活を送りながら成長したい」だと思います。その共通の目標を大切に学校生活のルールやマナーを考えてください。

「一人一人見えている世界が違う」ということについてもう一つ話します。それは「違いを楽しめるか」ということです。ここでの例えは、サッカーではなく、「目玉焼きに何をかけるか」という質問です。

「みなさん目玉焼きに何をかけて食べますか。これから私がいうものと、同じなら1、違うけどあり得るかもなら2、それはあり得ないなら3と声に出してください。それではソース。次、醤油・・・ケチャップ、マヨネーズ、塩。最後です、いちごジャム」

これからの世の中を生きていくみなさんのマインドは、「いちごジャムなの？おいしいの？そうか（現実、食べなくてもいいけどね・笑）」といったん受け入れてみることはとても大切です。たとえ自分の価値観と大きく違っていても、「君はそうなんだ！」のようなマインドをもつことは大切です。そもそも多様な価値観といっても、その人の思いつく多様の中での話であって、思いつかないことは含まれていないのです。だから違いを楽しむマインドは大切なのです。

何とも言えない例え話かもしれませんが、私としては、まずは目玉焼きに何をかけるかだけでも、いろんな人がいることを実感すること、そして「相手の価値観を自分事化する」ということを言いたいのです。自分と違う価値観を頭ごなしに突き放さない、これが大切になるのです。そして君たちのこれからは、「違いを楽しむ」がその人の強みになっていきます。

学年の最後はどんなクラスでありたいか、みんなで共通の目標を確認しよう